

『適時と的確』 ～ 大きな効果が出る ～

2023 年 9 月 30 日 早稲田大学エクステンションセンター中野校での講座【ジャンル 人間の探求：がんと生きる哲学 医師との対話を通して『がん』と生きる方法を考える】に赴いた。質問もあり大変有意義な時であった。

終了後、受講者の看護師と『中野四季公園』のレストランで昼食の時を持った。12 月 6 日予定されている東京湾での『屋形船の旅』で話が盛り上がった。また、福島県の移住される方が【『吉田富三記念館』と『浪江の「道の駅」での講演』のバス旅行】を企画される予感がある。実現したら歴史的大事業となろう！

10 月 2 日は、順天堂大学大学院講義 博士課程実践教育(Unit2)『腫瘍医学』コースの講義『オーバービュー・がん研究の歴史（分子生物学、ウイルス発がん、動物モデルなど）』キーワード『山極勝三郎(1863-1930)、吉田富三(1903-1973)、Knudson(1922-2016)』である。

【発がんの連盟的首位性 — Genotype, Phenotype, Dramatype『適時診断と的確治療』：初期条件がある範囲にあると、初期の変異が経時的変化とともに分子の相互作用によって、様々に拡大し、将来予測が不可能になる。これは初期のわずかな変異で大きな効果が出ることを意味する。非平衡状態にあり外部と相互作用する開かれた複雑系では、初期状態（Genotype）が同じでも、外部から、意識的に適時に介入すれば、ある特異点（Phenotype）で分岐し多様性のある制御（Dramatype）が可能になるはずである。病気は Dramatype なる故に、予防、治療が成立する。】

【電子計算機時代だ、宇宙時代だといってみても、人間の身体の出来と、その心情の動きとは、昔も今も変わっていないのである。超近代的で合理的といはれる人でも、病気になって、自分の死を考へさせられる時になると、太古の人間にかへる。その医師に訴へ、医師を見つめる目つきは、超近代的でも合理的でもなくなる。静かで、淋しく、哀れな、昔ながらの一個の人間にかへるのである。その時の救いは、頼りになる良医が側にいてくれることである。】（吉田富三）